

Title	阿岸本『砂石集』翻刻・巻一
Sub Title	
Author	上野, 陽子(Ueno, Yoko)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2001
Jtitle	三田國文 No.34 (2001. 9) ,p.74- 89
JaLC DOI	10.14991/002.20010900-0074
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20010900-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

阿岸本『砂石集』 翻刻・卷一

上野 陽子

書誌

阿岸本誓寺所蔵の『砂石集』写本については、日本古典文学大系の諸本解題では「広本／五帖本」の項に掲げられ、新日本

古典文学全集の諸本解題では「古本系／第二类十帖本」の項に掲げられる。現存の本書の内容は、吉川本と同様、巻一より巻五までである。本書の構成は、同じ古本系でも、日本古典文学大系の底本として知られている梵舜本や、新日本古典文学全集の底本として知られている米沢本とは異なる特徴を持ち、むしろ内閣文庫第一類本に近い。だが、その本文は、古本系でありながら流布本系に近い本文も持つ内閣文庫第一類本ともまた異なり、本書には独自異文が目立つ。

阿岸本のまとまった翻刻は未だに出されておらず、従って本文研究も甚だ不十分なままである。ここに、阿岸本の本文を翻刻し、古本系の代表格であり最古の完本である米沢本、古本の中でも特異な構成と米沢本・流布本の間位置するような本文を持つ梵舜本、そして流布本系である刊本の本文と比較することによって、『砂石集』諸本研究の助けとしたい。

・所蔵 阿岸本誓寺（石川県鳳至郡門前町）

・形態 写本／五卷五冊／袋綴じ／縦二六糎、横一九・五糎／外題・内題「砂石集」／序文あり／目録巻一のみなし／跋文・奥付なし／巻一の二丁表並びに巻三表紙見返しと二丁表にまたがる位置に本誓寺の所蔵を表す[〔]印の黒印あり

・表紙 古い表紙・裏表紙の紙は本文と同じである。ただし、巻二のみ古い裏表紙がない。新旧双方の表紙とも「砂石集」と巻数を縦書きにするが、巻三の古い表紙のみ「砂石集巻第五終り」と縦書きにする。日本古典文学大系の渡邊綱也氏の解題では、本書は巻一・巻二よりなる第一冊と巻三から巻五よりなる第二冊の五巻二冊とするが、現在は一巻ごとに一冊とした五巻五冊である。綴糸も、渡邊綱也氏の記述では、第一冊が茶、第二冊が白とされているが、現在は全冊に青が用いられており、明らかに綴じ直された形跡がある。住職のお話によると、昭和三十年代から四十年代頃に、現任職の祖父が五冊に分冊し、新しい表紙を付けたという。

凡例

本文は底本になるべく忠実になるように努めたが、旧字体・異体字等は通行の書体に改め、私に句読点・括弧等を補い、改行を加えた。底本に丁付けは記されていないが、私に【1オ】のごとく丁数と表裏の別を略記した。(ママ)は記していない。また、阿岸本と他諸本との比較のため、次のように傍線を付した。今後の『沙石集』本文研究の助けになればと思う。

—— 阿岸本独自異文

~~~~ 梵舜本に近い本文

~~~~ 米沢本に近い本文

~~~~ 刊本に近い本文

==== 梵舜本・刊本に近い本文

==== 梵舜本・米沢本に近い本文

..... 米沢本・刊本に近い本文

今回は序と巻一の翻刻を掲載する。今後、五回に渡り、全五巻の翻刻を順次掲載する予定である。

閲覧、並びに翻刻掲載を御許可下さいました阿岸本誓寺に御礼申し上げます。

砂石集卷第一并序

夫麁言衆語皆帰第一義、治生産業併ラ不背実相。然則狂言綺語ノアタナル詞ヲ因トシテ、一仏乗ノ妙ナル道ニ入シメ、世間浅近ノ賤譬ヲ縁トシテ、勝義諦ノ深理ヲ知ラシメント欲フ。是故ニ老ノネサメノ徒ナル手スサミニ、見事聞事思出スニ随テ、難波ノヨシアシヲモキラハス、玄甫ノ苑ノアワナシヲモエラハス、フリニシコトハラシルヘニテ、口ニ任テ綴リ成シ、藻塩草ニナソラヘテ、手ニ任テ攪集。カ、ル老法師ハ無常ノ念タニツマレ、縮、事ヲ觀シ、運命ノ歩々ニ近ケルコト【1オ】ヲ勤ヘハ、中有黄路ノ遠旅ニハ菩提ノ糧ヲ裏ミ、当来流転ノ苦海ニ得度ノ船ヲ織ヘキニ、恣ニ俗語ヲ賞シ、剩ヘ興言ヲ翫ハンコト、当レハ時光陰ヲ不レ惜マ於レ後ニ賢哲ニ不恥、頗ル似、無由一、愚人仏法ノ大ナル益ヲモ不悟一、和光ノ深慮ヲモ不知、将又凡聖ノ品異ナルヲモ不弁、因果ノ理ノ定レルヲモ不信、物ノ為メニ或ハ引ニ経論ヲ明文ヲ、或ハ記ニ先賢ノ遺セルメヲ。抑出要ノ方便非レ少ニ、入仏ノ因縁惟多シ。得レ残知深ヲ依、漸悟レル頓ヲ。開曉ノ情機不同ナレトモ、聖教ノ至理全同ナリ。倩、案ニ其大意一、執、伺ヲ其元由ヲ修万行分ケ【1ウ】身ヲ証一理ヲ帰ス心ニ。因レ茲雑談ノ次ニ引ニ教門戲論之問示ニ解行一。冀、見レ之ヲ人拙詞ヲ欺コトナカレ。触、事ニ勸レ道ヲ。聞之人疎ナル譬ヲ笑コトナカレ。於レ物ニ催レス感ヲ、三途ノ患ヲ遁テ九品ノ楽ニ遊ハン媒チ、生死ノ夢メ覚メテ法性ノ源ニ還ラン謀ナリ。仍此記ス所ハ聞ク浅トモ、彼ノサトル所ハ明カニ深カラントナリ。愚老之志唯在斯耳。蓋聞ク鑿、金仁ハ聚、レ沙ヲ探レ之琢、レ玉倫破レ石ヲ磨レ之。今对ニ金玉一号ニ沙石集一。卷十二満、篇百余レリ。

于時弘安第二之曆仲夏三伏之候、禪室余暇ニ染筆記之。爾林下貧士無住【2オ】

第一太神宮御事 第二解脫上人參宮事

第三祈出離神冥事 第四神冥貴玉慈悲事

第五貴玉慈悲与智人事 第六和光利益事

第七貴玉神冥道心事 第八生類供レ神ニ審事

第九神方便ニテ止ニ妄念事 第十願淨土人不可輕神事

### 太神宮事

去弘長年中ニ大神宮へ詣テ、侍シニ、或神官ノ語申シハ、「当社ニ三宝ノ名ライミ、御殿チカク僧ナント參ラヌ事ハ、深由緒アリ。最初此国未タ無リケル時、大海ノ底ニ大【2ウ】日ノ印文アリ。依レ之太神官搜ニ矛ヲ指入玉ケル。其ノ銚滴タリ如ク露ノ成リケル時、第天魔王遙ニ視テ、「此滴リ国ト成テ仏法流布シ、人倫生死ヲ出ヘキ瑞相アリ」トテ、障碍シ失ワシニ下リケルヲ、太神宮魔王ニ逢テ、「我レ三宝ノ名ヲモ云マシ。我身ニモ近付シ。トク／＼還リ上リ玉ヘキ」ト誘ヘ玉ケレハ、即還ニケリ。其御約束ヲタカヘシトテ、僧ナント御殿近ク不レ詣ラ。社檀ニシテハ経ヲモアラハニモタス。三宝ヲ守リ玉フコトニテ御座ス。故ニ我國ノ仏法偏ニ太神宮ノ守護ノ力ヲニヨレリ。

裏書云、三善為康記云、齋宮忌語、塔阿良々記、【3オ】

内七言、仏立強、経染紙、僧髻長、寺ヲハ瓦葺、俗ヲハ津乃八須、齋片膳、又堂ヲ香燃。

外七言、死奈保留、病良須牟、哭塩垂、血阿世、打奈津、穴久佐比良、墓津知久礼。

当社ハ本朝ノ諸神ノ父母ニテ御座也。素盞烏ノ尊天津罪ヲ犯シ

玉ヒシコトヲニクマセ玉テ、天ノ岩戸ヲ開テ隠玉ニキ。天下常闇ニシテ夜ル昼ルワカタサリシカハ、八万ノ神達、悲歎シ玉キ。太神宮ヲスカシ出シタテマツラン為ニ、灯シロク焼テ神樂ヲ鳴

シ玉シカハ、御子ノ神達御遊ユカシク思食【3ウ】テ岩戸ヲ少シ開テ御覽シケル時、世間明ニシテ人面白ク見ケレハ、「穴面白」ト喜ヘリ。此詞ハ爾時ヨリ云始タル。サテ大手力雄尊ト申神、イタキ留メ奉テ、終ニ日月ト成テ、天下ヲ照玉フ。去レハ日月

ノ光ニアタル事モ当社ノ恩徳也。惣シテ大海ノ底ノ大日ノ印文ヨリ事起テ、内空外宮、両部ノ大日トコソ習伝ヘテ侍シ。我朝ヲ大日本国ト云モ是故也。天ノ岩戸ト云ヘルハ都率天也。高向原トモ申ス。神代事ハ、皆由アルニコソ。真言ノ意ハ内証ノ法

界宮、密蔽国ト、都率ヲハ申ナリ。彼内証ノ都ヲ出テ、此日域ニ跡ヲ垂ル故ニ、内宮ハ胎藏【4オ】ノ大日、四種曼荼羅ヲカタトリ玉フ。玉桓・水桓・荒桓ナント重々也。勝尾木モ九アリ。胎藏ノ九尊ニ准ス。外宮ハ金剛界ノ大日、或ハ阿弥陀トモ云ヘ

リ。サレトモ金界ノ五智ニカタトルニヤ、月輪モ五アリ。胎金ノ両部陰陽ニ儀ニツカサトル時ハ陰女陽男ナル故ニ、八人ノ八乙女ハ胎藏ノ門象ナリ。五人ノ神樂、男ハ金ノ五智ナリ。又御殿ノ萱葺ナルコト御供ヲタ、ミ杵掲テ黒シ。人ノ煩イ国ノ費ヲ

思食故也。勝尾木モ直ニ樽木モ曲ハ、人ノ心ヲスナホニナラシメン故也。サレハ心マカラスシテスナラニ民ノ苦ミ国ノ費ヲ顧ミン人、神慮ニ可叶也。又【4ウ】当社ノ神官ハ自然ニ梵網ノ十重ヲ持テル也。人ヲ殺害シヌレハ、永ク氏ヲ放タル。既ニ婆

羅夷罪ノ仏子ノ数ニ入レリ。人ヲ打擲刃傷シヌレハ、忽解官セラル。軽垢罪ニ似タリ。又当社ニ物ヲ忌玉フコト、余社ニスコ

シ替テ侍リ。産屋生仮トテ五十日也。死セルヲモ死仮トテ同五十日也。其故ハ死ハ生ヨリ来リ、生ハ是死ノ始也。生死共同ク忌ヘシト也トコソ申伝テ侍レ」ト云キ。誠ニ不生不滅ノ毘盧遮那ノ内証、法身ヲ出テ、愚痴顛倒ノ六趣四生ノ凡夫群類ヲ助ケント跡ヲ垂玉ヘル御本意、生死流動ヲ止メテ常住ノ仏道ニ入レントノ御謀ナレハ、生ヲモ死ヲモ同ク忌ト云ハ、【5オ】愚ニ梗流転ノ妄業ヲツ、シミテ、賢ク貴仏法ヲ修行シ勤テ、穢土ノ生死ヲ厭ヒ、淨土菩提ヲ願ヘトナリ。去レハ誠數ク仏道ヲ信行セシコソ太神宮ノ御意ニ可叶。只今生ノ榮果ノミ祈、偏ニ己身ノ福寿ノミ願テ、執心深ク物忌ミ固ク慈悲カケ道念無クハ、神慮ニ不レ可レ叶。然ハ本地垂迹ノ其御形コソ異トモ、内証外用ノ其御意カハラシソカシ。漢朝ニハ、仏法ヲ弘メン為ニ儒童・迦葉・錠光ノ三菩薩、老子・孔子・顔回トテ、先以テ外典ヲ人ノ心ヲ和ケテ、後ニ仏教流布セシカハ、人皆信シテ之ヲ、我朝ニハ和光同塵ノ神冥先跡ヲ垂テ人ノ荒心ヲ耳、仏法ヲ修行シ勤テ穢【5ウ】土ノ生死ヲ厭ヒ、淨土菩提ヲ願ヘト也。サレハ仏法ヲ信セシムル方便トモシ玉ヘリ。本地ノ利益ヲ仰キ、垂迹ノ方便ヲ信セハ、現世家穩ノ喜、後生ノ吉処ノ望ミ不可疑。我国ニ受生ヲ人ト誰カ不結願達ノ縁ハ相成道化儀、豈只空カラシヤ。

#### 解脱坊上人參宮事

同神官語申セシハ、「故笠置ノ上人為ニ菩提心祈請ノ八幡宮へ被參籠事有。忽ニ有テ御示現一夢中ニ御告アリ。『我力ニハ難叶。大神宮ニ可ニ祈申一』トテ、道ノ有リ様マ委ク教玉フ。即夢ノ中ニ詣テ程ニ外宮ノ南山ヲ直クニ越行玉フニ、山ノ頂ニ大池アリ。大小ノ蓮華、池ノ【6オ】中ニ充滿シテ、開タル花、

合ル花、散々トシテ重セル香、匂ヘル色、芬々タリ。傍ニ有レ人云様、『此蓮花ハ当社ノ神宮、已ニ往生シタルハ開タリ。可ニ往生一ス合リ。和光ノ方便ニテ、多クハ往生シタルナリ。アノ合ル蓮花ノ大ナルハ經基ノ禰宜ト申スカ、可ニ往生花ナリ』トソ申ケル。サテ御社檀へ參テ法施ヲ奉ルトソ夢ミタイヒケル。聽テ打驚キ笈打懸、只一人夢ニ任テ參リ玉フニ、道スカラ少モ夢ニ不レ違。但シ外宮ノ南山ノ麓ヲ廻テ大道アリテ、山ノ路ハナシ。コレノミソ夢路ニ違タリケル。御社檀ノ体ハ更ニ夢ニタカハサリナリ。サテ若キ俗冠アリケルヲ招寄テ、先ツ夢ミ玉シ祢宜ノコトヲ問玉リ。『コレニ經【6ウ】基ト申スカ祢宜ヤヲハスル』トノ玉ヘハ、『其コソ經基トナノリサフラヘ。祢宜ニハ可成物ニテ候ヘ共、當時ハ祢宜ニテ不レ侍』申。サテ笈ノ内ヨリ砂金ヲ三両取出シテ、經基ニタヒニケリ。即彼人ノ家ニ宿シテ、社頭ノ様ナント細カニ問セ玉ケリ。『我今度生死ヲ不レ離人間ニ生レハ、当社ノ神官ト成テ必ス和光ノ利益ヲ可レシテ仰』誓玉ケル』ト語り侍。彼經基ニ親シキ神官ノ語申セシカハ、慥ノコトニコソ。

#### 出離祈タル神冥一事

三井寺ノ長吏僧正公顯ト申セシハ、頭密ノ明匠、道心純熟ノ人也ト聞ケレハ、高野ノ明遍僧都、彼ノ行業ヲオホツ【7オ】カナク思ハレケル任ニ、善阿弥陀仏ト云遁世者ヲ語ヒテ、彼行儀ヲミセラル。高野ヒカサニ脛長ナル黒衣キテ、異様ナリケルトモ、シカク申入タリケレハ、高野聖ト聞玉テ、ナツカシク被思ケルニヤ、額ツキシタル經居ニ呼ヒ入テ、高野ノ事ト後世ノ事ト物語、通レ夜セラレケリ。サテ其朝夕、淨衣着テ幣帛持

テ、一間ナル所ノ帳懸タルニ向テ所作セラレケレハ、善阿「ヲモハスノ作法カナ」ト見ケリ。三日カ程逗留スルニカハル儀ナシ。事体能タミテ申ケルハ、「朝ノ御所作コソ異様ニ見ヘサセ玉ヘ。何様ナル御所為ニヤ」ト尋申ケレハ、「進テモ申度ク侍ルニ、問玉ヘルコソ本意ナレ。我身顕密ノ聖教ヲ問ニ、瑩出離ノ要【7ウ】道ヲ思ヒハカルニ、自力ヨハク、智灯クラクシテハ、輒クトケカタシ。只偏ノ神冥ノ勝縁ヲ憑奉ツルヘキナリ。仍都ノ大小神祇ハ不<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>申ニ、辺土外域ノ神冥マテモ隨テ聞及ニ御名ヲ書戴ス。惣シテ日本國中ノ大小ノ諸神ヲ不漏サ勸請シテ此一間ナル処ニ奉<sub>レ</sub>祝ヒ、心經祭文神呪ナント法樂ニ備ヘテ、出離ノ要道、偏ニ權現ノ化縁ヲタノミ、当來得脱專ラ和光ノ方便ヲ仰ク行業、無他。祈請シ無<sub>レ</sub>ニ。其故ハ大聖ノ善巧、依國、隨<sub>レ</sub>機ニ定レル軌ナシ。設ヘハ○『聖人ハ常ノ心無シ。以<sub>レ</sub>万人ノ心ヲ為<sub>レ</sub>スト心』云カ如ク、法身ハ定レル身無シ。以<sub>レ</sub>二万物身一<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>身ト。然ハ無相法身所具ノ十界、皆ナ一智毘盧ノ全体也。天【8オ】台ノ意ナラハ、性具ノ三千十界ノ依正、智法身所具ノ万徳ナレハ、性徳ノ十界ヲ修徳ニ顯シテ、以<sub>レ</sub>ニ普現三昧ノ力<sub>一</sub>、九界ノ迷情ヲ度ス。又密教ノ意ナラハ、四種曼荼<sub>ハ</sub>法身所具ノ十界、円檀ナリ。内証自性会ノ本質ヲ移シテ外用大悲檀ノ利益ヲ垂ル。顕密ノ大意ニ依テハカル。法身地ヨリ十界ノ色身ヲ現シテ、衆生ヲ化度スル。妙身ノ上ノ妙用ナレハ、○水ヲハナレヌ波浪ノ如ク、真如ニハナレタル縁起ナシ。然則西天上代ノ機ニハ、仏菩提現<sub>ニ</sub>テ形<sub>ヲ</sub>度<sub>レ</sub>ス之。粟散<sub>ハ</sub>辺地也。剛法強ノ衆生、因果ヲモ不知、仏法ヲモ不信類ニハ、同体無縁ノ慈悲ヲ起シ、等流法身応用ヲ垂レ、或ハ惡鬼邪【8ウ】神ノ形ヲ現シ、或ハ毒蛇

猛獸ノ身ヲ示、暴惡調伏シテ仏道ニ引入シ玉フ。去他國有縁ノ化儀ヲ重クシテ、本朝相応ノ化道ヲ輕クスヘカラス。我朝ハモトヨリ神國トシテ大權跡ヲ垂レ、応物顯ヲ數ク。我等又彼孫裔<sub>ノ</sub>裔<sub>ヲ</sub>氣ヲ同スル因縁不<sub>レ</sub>淺カラ。此外ノ本尊ヲ尋ネハ、返リテ感応道ヲ隔リヌヘシ。仍機感相応ノ和光ノ方便ヲ仰テ、出離生死ノ要道ヲ祈リ申サンニハシカシ。以<sub>レ</sub>金<sub>ヲ</sub>人畜ノ形ヲ造ル。見<sub>レ</sub>形<sub>ヲ</sub>、忘<sub>レ</sub>ニハ金<sub>ヲ</sub>勝劣アリ。見<sub>レ</sub>金<sub>ヲ</sub>、忘<sub>レ</sub>ニハ形<sub>ヲ</sub>差別無カ如シ。以<sub>レ</sub>テ法身無相ノ金<sub>ヲ</sub>、四重法界十界円檀ノ形ヲ造<sub>ル</sub>別形<sub>ヲ</sub>。信<sub>ハ</sub>體<sub>ヲ</sub>、イツレカ法身ノ利益ニアラサル。智門ハ高<sub>ヲ</sub>勝<sub>タリ</sub>トシ、悲門ハ【9オ】下<sub>レ</sub>レルヲ妙ナリトス。ヒキ、○人ノタケクラヘハ、下<sub>ヲ</sub>勝<sub>ト</sub>スルガ様ニ大悲利益ハ殊ニ等流ノ身劣機近付テ、雜類ノ群生ヲ濟ク慈悲誠ニ勝タリ。サレハ和光コソ諸聖ノ慈悲ノ至極ナレト、信心ニテ、如此行儀コト様ナレトモ、年久クシツケテ待ナリ」ト語玉フ。善阿「眞実目出キ御意樂ナリ」ト隨喜シテ、高野ニ歸リ、僧都ニシカ<sub>ク</sub>ト語ケレハ、「智者ニテ御座ス。ヲロカノ行業アラシト思ツル。イミシク思ヒ謀ハレタリ」トテ、隨喜ノ涙ヲ流サレケリト有キ。遁世者語侍キ。所以ニ智者大師ノ摩訶止觀ヲトキテ、○「止觀トハ高尚ノ者ハ高尚シ、卑劣ノ者ハ卑劣セン」ト釈シ玉ヘルカ如ク、【9ウ】和光同塵ヲモ、高尚ノ人ハ高尚ニ崇ムヘキニコソ。密教ノ深キ意ハ十界皆無相法身ノ所現ナレハ、炎魔ノ身モ毘盧ノ形モ実ニハ四種法身ヲソナヘ、五智無際ヲ具セリ。其ノ内証ニ入ラハ、鬼畜炎魔ノ身ヲ不<sub>レ</sub>改シテ、自性法身ノ心地ヲ開クヘシ。サレバ○古徳云「阿鼻ノ依正ハ全ク処<sub>シ</sub>極性ノ自身ニ、毘盧ノ身土ハ不<sub>レ</sub>踰<sub>ニ</sub>凡<sub>下</sub>ノ一念<sub>一</sub>」又三種ノ即身成仏ヲ立ツ。○理

具ノ成仏ト者、人々元是仏ナリ。我執ニ依テ不レ顯ハレ。諸仏ハ顯得ノ成仏ヲトケテ、自在ニ利益ヲ施シ玉フ。○加持ノ成仏ト者、已成ノ諸仏ノ三業ノ妙用ヲマナヒテ、増上縁トシテ行者ノ自心ニ具足【10オ】セル。無尽ノ莊嚴恒沙ノ徳用ヲ行ヒ顯ス也。信心マコトニシテ我カ三業、仏ノ三業ニ相応スル時、行人即チ仏ト成リ。村上ノ御宇ノコトニヤ、内裏ニテ五檀ノ大法ヲ被修ケルニ、○慈惠僧正ハ中檀ノ大阿闍梨ナリ。御門ヒソカニ御覽有シニ、行法ノ間ハ不動成テ本尊ニスコシモタカヒ玉ハス。寛朝僧正ハ降三世ノ大阿闍梨也。或時ハ本尊トナリ、或時ハ僧正ナリケリ。御門是ヲ御覽シテ、「不便ノ事カナ。寛朝ハ妄念ノ発ルニコソ」ト仰玉ケリ。余檀ノ阿闍梨ハ只本ノ僧ナリケリ。△又經ニハ「一切衆生皆如来蔵。普賢菩薩自体遍故」ト説テ、我全体法【10ウ】身ナリト云ヘトモ、只迷ト悟トノ差別也。○又不増不減經ニハ「即此法身ノ流ニ転スルヲ五道ニ説、名ニ衆生ト。即此法身ノ修ニ行スルヲ六度ヲ、名爲菩薩。即此法身遍流尽スヲ源説名爲仏」云ヘリ。然今思ニ垂迹ヲ、「即此法身和光同塵、名爲神冥」トコソ被ニ意得ニ侍リ。サレハ本地垂迹其体同シケレトモ、機ニノソム利益暫ク優劣無ニアラス。我朝ノ利生ハ以垂迹面ヲ、猶遙ニ勝テ御座ニヤ。

○昔ノ役ノ行者、吉野ノ山上ニ被行ケルニ、釈迦ノ像現シ玉ヘルヲ、「此御形ニテ此國ノ衆生ハ難化カルヘシ。隠サセ玉ヘ」ト被申ケレハ、弥勒ノ形ヲ現シ玉フ。「猶是レモ不シト叶」被申ケル時、【11オ】當時ノ蔵王権現トテヲソシケナル御形ヲ現シ玉ヒケル時、「コレコソ我國ノ能化ヨ」ト申請シ玉カハ、今跡ヲ垂テ御座ル也。

○釈迦尊劫尽ノ時ハ夜叉ト成テ無道心者ヲ取り食テ、人勸テ道心ヲ起サシムルモ此意ナリ。行者信深シテ一心ニ債ミ敬ヘル時、現ニ利益ニ預ル。我國ノ風儀、神冥神祇ハ新ニ賞罰嚴重ルカ故ニ、人毎ニ信敬厚ク、仏菩薩ハ法理ニ相応シテ、遠益目出ト云ヘトモ、現徳ハ和光ノ方便ヨリモオタヤカナルマ、ニ、愚ナル族ヲ信立スルコト薄シ。然ハ愚癡ノ類ヲ齋ヒ助クル方便コソ、実ニ深慈悲ノコマヤカナル善巧ナレ。

○青キコトハ藍ヨリ出テ藍ヨリモ青カ如ク、【11ウ】尊コトハ仏ヨリ出テ仏ヨリモ尊キハ、和光神冥ノ利益ナルヲヤ。

○古徳ノ寺ヲ建テ、法ヲ弘玉フ、必先勸請神ヲ奉崇是故也。彼僧正ノ意業、此趣ニコソ。心アラム人、争カ習ヒ玉ハサルヘキ。

#### 神冥貴玉フ慈悲ノ事

和州三輪ノ上人常觀坊ト申セシハ、慈悲深ク、道念有シ人ニテ、密教ヲ旨トシテ、結縁ノ為ニ普ク人授ケ、世ニ弘メシ聖ナリ。或時吉野山上ヘ只一人詣玉シ路ノ頭ニ、ヲサナキ者両三人普居テ、サメ／＼ト泣ケルハ、ナニトナク哀ニ思テ、「何事ニ泣ク」ト問玉ヘハ、十三計ナル女子答ケルハ、「母ニテ候ツルカワロキ病シテ死シテ侍リ。父ハ遠ク【12オ】タカヒテ候ハス。人ハイフセキ事ニシテ見訪フコトモ無シ。吾身ハ女子ナリ。弟共ハヲサナクシテ云甲斐ナシ。只ヤル方ナク悲サノアマリニ泣ヨリ外ノコト不レ侍。」涙モカキアヘス。心中ニ誠サコソト哀ニ思玉ケレバ、「今度ノモノマウテヲ思留リ、是ヲ助テ、イツニテモ又コソ詣メ」ト思ツ、便宜近キ野原ニ送リ置ツ、陀羅尼・真言ナント唱玉テネンコロニ訪ハレケリ。サテ三輪ヘ還ラントスレバ、身スクミテハタラカズ。「アハレ思ツル事ヨ。垂迹ノ前

ハキヒシキ御事ト知りナカラ、カ、ル振舞ヲシツル時ニ、神罰  
ニコトゾ」ト浅猿ク思イナカラ、コ、ロミニ吉野ノ方ヘ打向テ  
歩玉ヘハ、煩ヒ無ケリ。爾時コソ、「サテハ【12ウ】参ラント思  
食タルニヤ」ト心トリノヘテ、参詣セラル、ニ、別ノ煩ヒ無ク  
シテ山上ニ詣ヌ。恐有ケレバ、御殿ヨリ遥ナル木ノ本ニ念誦シ  
法施奉ルニ、折節巫女神付シテ舞踊ケルカ、走出テ、「アノ御  
房ハイカニヤ」ト云フ。「アナ浅猿シ。コレマテモ参ルマシ  
カリケルニコソ。御トカメニヤ」ト胸ウチ驚テ恐レニ思程ニ、  
巫女近付ヨリツ、「イカニ上人、此程ニ待入ツルニ、遅クハヲ  
ハスルソ。我ハ物ヲハイマヌソ。慈悲コソ貴ケレ」トテ、袖ヲ  
引テ拜殿ノ内ヘ具足シテラハシケル。余ニ貴クカタシケナク覺  
ヘケレハ、墨染ノ袖モシホル計カリ。去法門ナント直ニ申承  
ツ、泣々下向シ玉ヘリ。

ソノカミ恵心ノ僧都ノ被参詣タリ【13オ】ケルニモ、御託宣  
アリテ法門ナント神託アリシカハ、目出ク難レ有覺ヘテ、天台  
ノ法門不審被レ申ケルニ明カニ御答有キ。次第ニ立入テ、宗ノ  
大事ヲ尋申シ玉ヒケル時ニコソ、巫女柱ニ立副テ足ヲヨリテホ  
ケケト物思質ニテ、「余ニ和光同塵年久ク成テ忘タルソ」ト被  
仰ケルコソ、中々哀ニ覺ヘケレ。アノ東太寺ノ石ヒシリ△經  
住カ、「我レ觀音ノ化身也」トナノレトモ、人ト不レ信マ、ニ、  
ヲヒタ、シク誓状ヲシケルヲ、或人云ケルハ「觀音ノ化身ナ  
リトナノルヲ人不レ信。具足神通力広修智方便ナレハ神通ヲ現  
シテ見セヨカシ。誓状ハ無下ニヲメタリ」ト咲ケレハ、「余ニ久  
ク現シ尽シテ神通モワスレテ候物ヲヤ」ト云ケレバ、【13ウ】思  
合テヲカシクコソ侍レ。末代ハ随レ時ニ振舞テ權者ヲモワキカ

タカルヘシ。牛羊ノ眼ヲモテ衆生ヲ評量セサレ」ト云ヘリメレ。  
誠ニシリカタカルヘシ。

○尾張國熱田ノ神官語シハ「性蓮坊ト云フ聖、母ノ骨ヲ持テ高  
野ヘ参ケル次ニ、社頭宿セントス。人皆知テ宿スモノナカリケ  
レハ、大宮ノ南門ノ脇ニ参籠シタリケル夜、大宮司ノ夢ニ大明  
神ノ御使トテ神官一人來テ、「今夜大事ノ客人ヲ得タリ。能々モ  
テナセトノ仰ニテ候」ト云ト見テ夢サメヌ。ヤカテ大宮司使者  
ヲ社壇ニ参セテ「通夜ノ人ヤ御座」ト尋ヌルニ、性蓮坊ノ外ハ  
更以人ナシ。使者返テ此由ヲ申ス。サラハトテ性蓮坊ヲ請スル  
ニ、【14オ】「母ノ骨ヲ持テ候ヘハエ参ラシ」ト申シケルヲ、「大  
明神ノ御シタテハ万事奉レ仰ニ神慮ヲコトニテ候。カ、ル示現  
ヲ蒙ヌル上ハ、私ニ忌ミ参スルニ不及」トテ、請入テサマノ  
ニモテナシキ。馬鞍用途ナント沙汰シテ高野ヘ奉送ケリ。

○又承久乱逆ノ時、当國ノ住人恐レヲノ、キテ社頭ニ集テ、築  
垣ノ内ニテ、世間ノ質賤雜具モチハコヒテ、所モナクコミ居タ  
ル中ニ、或ハ親ニラクレ子ニワカレ、或ハウフ屋ナル人モ有リ。  
神官達制止カネテ、「大明神ヲオシ参セテ御託宣ニ可レ任」トテ  
御神樂ヲ参セテ、諸人同心ニ祈誓有シニ、權現忽ニ一称宜ニ託  
シテ、「我天ヨリ此國ヘ降レルコトハ、万人ヲハコクミ助ケンカ  
【14ウ】為也。ヨリニコソヨレ、忌ムマシキソ」ト仰玉ケレハ、  
諸人一同ニ音ヲ揚テ随喜渴仰ノ涙ヲ流ケリ。彼ノ時ノ人ト今ニ  
有テ語り侍テ、サレハ神冥御心ハ、何々カハリタマハヌニコソ。  
只心キヨクハ身モケカレシソカシ。

慈悲ト智恵アル人ヲ神冥貴玉フ事

春日大明神御託宣ニハ、「明恵坊・解脱坊ヲハ我太郎・次郎ト



思ナリ」トソ示玉ヒケル。或時彼ノ兩人相ツレテ、春日ノ御社ニ參詣有シカハ、春日野ノ鹿トモヒサヲカ、メ首ヲタレテ臥居テ奉敬。不思議ナリシ事也。又明恵上人渡天ノ志シ深ク思立玉ケルニ、湯淺ニテ春日明神御託宣有テ留リ玉ヘリ。彼ノ御託宣ノ日記【15オ】モ侍ルトソ承ル。ハル／＼境ヲ隔テ離ナレ事ヲ歎キ思召由ノ御宣ナリケレハ、終ニ留玉ケルコソ哀ナレ。「若我思立候ハ、安穩ニ渡リ候ナンヤ」ト泣タ申サセ玉ケレハ、「左右ニ不及。我タニ守リ奉ラハ、ナトカハ」トコソ仰有ケレ。爾時、權現、上人ノ手ヲネフラセ玉ケルカ、一期ノ程カウハシカリケルトソ申伝タル。

○解脱坊ノ上人、笠置ニ名テ般若台ト、閑居ノ地トニテ參詣ニ大明神ヲ玉ケレハ、童子ノ形ニテ上人ノ頸ニ乗ツ、ワタラセ玉ヒケリ。御詠アリテ、

我ユカンユキテ守ラン般若台釈迦ノミノリノ有ランカキリハ  
或時般若台ノ道場ノ虚空ニ、御音ハカリシテ御詠アケリ。

我ヲシレ【15ウ】釈迦牟尼仏ノ世ニ出テサヤケキ月ノ夜ヲテ  
ラストハ

常ニ甚深ノ法門ナント被示、又問ヒ申玉ケリ。誠ニ在世ノ事ヲ聞玉ケル心地シテ、カタシケンク難レ有カリキ。ヨニ浦山敷侍カナ。「光有ルモノハ光有物ヲ伴トス」ト云ヘリ。神冥ハ内ニ朗カニ、外ニ慈悲妙ナリ。サレハ智恵モ備ヘ慈悲モ具セハ、神冥友ト思食ヘキソヤ。書ニ云ク、「火ハカハケルニツキ、水ハ又レタルニ流。」誠ニ執着無クシテ心カハカハ、智恵ノ火付又ヘシ。憐愍ノミ有テ情ケ深クハ慈悲ノ水ツ潤ヲフヘシ。

和光ノ利益ノ目出事

南都ニ少輔僧都璋円トテ、解脱坊ノ上人ノ弟子ニテ硯学ノ間ヘ【16オ】アリシカ、魔道ニ落テ、或ル女ニ付テ種々ノ事トモヲ託語シケル中ニ、「我大明神ノ御方便ノイミシク御座スコトヲ申ス。聊モ奉値遇人ヲハ、イカナル罪人ナレトモ、他方ノ地獄ニ不遣シテ、春日ノ野ノ下ニ地獄ヲ構ヘテ取入ツ、毎日晨朝ニ、御殿御内ヨリ灑水々ヲ添ニ散杖ヲソ、キ玉ヘハ、一ノ滴水、罪人ノ口ニ入テ熱苦ヲ齎フ。暫ク正念ニ住セシムル時、大乘經ノ要文秘密教ノ神呪唱サセ玉テ、罪人ニ令聞玉フコト、日々ニオコタリナシ。依ニ此方便ニ漸ク開悟得脱セリ。又硯徳達ハ春日山ノ東ニ高山ト云所ニシテ、大明神自ラ般若ヲ説玉フニ、聽聞シテ各ノ論議問答ナント人間ニタカハス。昔ノ明匠ハ皆【16ウ】明匠ナリ。マノアタリ大明神御詠法ヲ承ハルノミコソ、目出タケレ」ト託宣シキ。地藏ノ本社、鹿鳴ノ三所ノ其一ナリ。コトニ利生目出ク御座トソ申合侍ル。誠ニ無仏ノ導師、付属ノ薩捶ナリ。本地垂迹イツレモタノモシク、内証外用共ニアリカタシ。抑モ和光ノ利益ハイツレノ社モ同シコトニヤ。日吉ノ大宮ノ後ニモ、山僧クタンノ天狗ト成テ山王ノ方便ニヨリテ出離ストコソ申伝タル。ソレモ諸社ノ中ニ十禪師ハ靈驗無双ナリ。是モ本地地藏ナリ。トテモカクテモ人身ヲウケタル思出、仏法ニ値シルシニハ、一國ノ方便ニ取付テ、普門ヲ証得ヘキ也。心地觀經ニハ、「一仏一菩提ヲタノム【17オ】ヲ要法トス」ト説リ。サレハ、シタニハ仏性常住ノ真如ノ妙理ヲ信シ、ウヘニハ本地垂迹ノ慈悲方便ヲ仰キ、出離得脱ノ道ヲ心中ニ深く思染ムヘキヲヤ。三悪ノ火坑ハ跌ノ下ニアリ。六趣ノ長夜ハ夢メ未サメズ。爪上ノ人身ヲ受ケ、優曇ノ仏法ニ値ナカラ為コト無ク勤コト無

クシテ生死ノモクツト朽、無間ノ薪ト成ナハ、千度ヒ悔ヒ百度ヒ悔悲ムトモ、何ノ益カ有ルヘキ。多生ニマレニ浮ヒ出テ億劫ニ一度値遇ヘリ。コ、ロユルクシテ、空ク光陰ヲ送ルコトナカレ。時人ヲマタス、死兼テ不レ弁ヘ。ユメ、くヲコタリナクヨモくツトメ侍ヘシ。

神冥眞道心ヲ事【17ウ】

南都ニ有二学侶一ケリ。年久蜚雪ノ窓ニ劫ヲ積ミ、稽古ノ床ニ勞ヲ重ス。碩学ノ名遠近聞ヘケリ。或時春日ノ御社ニ參籠ス。夢ニ大明神マノアタリ顯レ御座シテ、瑜伽唯識ノ法門ナント不審申ケリ。又御返事モ有ケリ。但シ御顔ヲバ拝サリ。夢ノ中ニ申ケルハ、「誠ニ修学年タケテ、重習日新也。専ラ唯識ノ法灯ヲ挑テ偏ニ明神ノ法樂ニ備フ。其劫ニヤ、忝モ尊体ヲ拝シ、剩ヘ神言ヲ承ル。是レ一世ノ浅キ因ニアラス、既ニ多生ノ深縁ニコソ。同ハ玉顔ヲ拜ミ奉リタラハ、何計カハ日出ク隨喜ノ心モ深カラン」ト、歎申ケレハ、「誠ニ学劫ノ難レ有覺レハコソ、カクマテ問答モアラ。但汝道【18オ】心カケタル故ニ、面ハ向ヘタク無ソ」ト仰セ有ト見テ夢サメヌ。爾時ニ感涙眼ニ滿、慚愧肝ニ銘ス。其仏教ハ何ノ宗モ生死ヲ解脱セハ一大事ノ因縁ナリ。事ニ名利ヲ思ヘカラス。然トモ南都北嶺ノ学侶ノ風儀、偏執ヲ楯梓トシ、名声ヲ詮途ス。出離ニシテマス菩提ヲヨソニスルユヘニ、タ、シクハ魔界ニ墮シ、或ハ惡趣ニ沈ム。口惜キ振舞イ、無詮所行也トテ、嚙テ入リ遁世門ニ、一筋ニ覺路ノ勤メヲ致シケリ。

○昔為ニ山門ノ三井寺焼払い、堂塔僧坊佛像經卷殘ル所無ク失セ、住侶モ山野ニ交リ、人畜モ東西ニ迷ヘリ。アサチカハラ

チトノスミカニ成ニケリ。其中ニ或ル僧一人忍ヒテ【18ウ】新羅明神ニ通夜シタリケル。夢ニ明神御戸ヲ押シ開セ玉テ、ヨニ御心地ヨケニテ見サセ玉ヒケレハ、夢中ニ思ハスニ覺ヘテ、「我寺ノ仏法ヲ守ムト御誓ヒ有テ新羅國ヨリ来玉ヌルニ、カク失ハテヌレハ、何許リ御歎モ深カラント思ヒ侍ル。其ノ御氣色ハタラセタイハス見ヘサセ玉ハイカニ」ト恨ミ申シケレハ、「我争カ歎キ思食サン。コトカキリ有ラハ雲ノ上ヨリモホトリ無クケリ、四ノ底ヨリモ深カルヘシ。サレトモ此事ニ依テ眞実ノ大菩提心発セル寺僧一人アル事ノヨロコハシキ也。仏闍經教ハ財宝アラハ造写ヌヘシ。菩提心ヲオコセル人ハ千万ノ中ニモ希也」トソ仰玉ケルト夢ミテ、彼ノ僧モヤカテ発心シテ侍ケルトソ申伝タル。【19オ】サレハ神冥ノ御心ハ偏ニ菩提心ヲ発シ、実ノ道ニ入ルヲ悦ヒ玉コト、何神モ同御事也。一旦今生ノ事ノミ祈申サンハ、神冥ニハ可背ニヤ。先生ノ果報マテ貧福定リアリ。強現世ノコトノミ神冥・仏陀ニ祈ラハ宿業ヲ恥ス。具來報ヲ不レ枯。マメヤカニオロカニコソ。カナハサランマテモ道心ヲ祈リ菩提ヲ斯シテ行業ヲ積ミ、廻向ヲ可レ用也。

○中古東塔ノ北谷ノ貧僧アリケリ。日吉ヘ參詣シテ福祐ヲ祈申ケルニ、可ニ相叶一由ノ示現ヲ蒙テ、喜ヒ思テ過クル程ニ、聊ノ子細ニ依テ年来ノ坊主ニ被ニ追出一、寄方モ無マ、ニ、西塔ノ南谷ナル坊ニ同宿シテケリ。示現ヲ蒙リテ後チ物ヲ待ツ心地シテ有ケルニ、指セル事無ノミニアラス、【19ウ】剩ハ坊主ニモ勸当セラレケレハ、無ニ面目一思テ、又參籠シテ重テ祈申ケル程ニ、示現ニ蒙ケルハ、「先業拙シテ曾テ福分無故ニ、東塔北谷ハ寒坊ナレハ、西塔ノ南谷ノ温カナル坊ヘ遣タル也。是コソ小

袖一ノ恩ト思ハカラヒタレ。此外福分ハ先業ノ威徳ハ決定応受ノ道理難遁、仏力モ不レ叶ニコソ。アノ神力業力ニカタス」ト云ヘリ。

仏在世ニ五百ノ釈種等、瑠璃太子ニ誅タリシヲ、釈尊更ニ助玉ハス。「親ク釈尊御親類ナレバ、何ナル神通力ヲ運ヒテモ助ケ玉ヘキニ、衆会不審也」申サレケルヲ、彼ノ不審ヲ破カ為ニ、一人ノ釈子ヲ御鉢ノ中ニ入玉テ天上ニ隱シ置玉シモ、余ノ釈種ノ謀ラレケル日、自然トシテ鉢ノ中ニ頓死【20才】セリ。仏彼ノ因縁ヲ説玉ヒケルハ、「五百ノ釈種、昔五百人ノ網人トシテ一ノ大魚ヲ海中ヨリ引上テ害セシ故也。其ノ大魚ト云ハ今ノ瑠璃太子也。我モ爾時童子タリキ。以ニ草ノ葉一魚ノ頭ヲ打タリシ故ニ、今日頭ヲ痛シ」ト説玉ヘリ。釈尊スラ尚ヲ其日御惱有キ。矧ヤ凡夫ノ位ニ因果ノ理ヲ遁ンヤ。

○利辟支比丘ト云ケルハ、羅漢ノ聖者ナリケレトモ、余ニ貧シテ乞食スレトモ食ヲエス。仏教テ塔ノ塵ヲ掃サセ玉ケレハ、其日ハ乞食ヲシエケリ。或時、朝寝久クシテヲソクハカサリケルヲ、舍利仏掃之テケリ。其後乞食スルニ、更ニ不得シテ、七日飢テ沙ヲ食ヒ水ヲ飲テ、終ニ餓死ス。仏彼ノ因縁ヲ説云、「過去ニ母ノ為ニ不幸ニシテ邪見ナリキ。母ハ【20ウ】飢ヲ得テ物ヲ乞ケルニ、「沙ヲモ食ヒ水ヲモメセカシ」トテ、七日食ヲ不与シテ母ヲホシ殺タル業也。聖者ト成トモ、猶ソノ罪ムクウ也」トソ説玉ヒケル。カ、ル因縁ナレハ、貧モ、早モ、難ニ逢モ、苦遇モ、皆我カ昔ノ咎也。世ヲモウラミ、神ヲモ仏ヲモ恨ムヘカラス。只我心ヲ恥シメテ、今ヨリ後ハ、過カ無ク罪無身ト成テ、浄土ヲ願シ、菩提ヲ願ヘシ。二条ノ院ノ讚岐、此意ヲ説メルニ

ヤ

憂モナホ昔ノユヘトラモハスハイカテ此世ヲ恨ハテマシ凡仏神ノ加持ハ根機小縁ヲ得テ感応ノ水ニ浮フ。大日ノ清水ニ移ルカ如シ。今生夢中ノ栄花ハ如何テモ有ナン。後世菩提ノ事ヲ、カナハ又迄モ祈申ニソ、神慮ニモ不レ叶。

○桓舜僧【21才】都ト申ケル山僧、余ニ貧ニシテ日吉ニ參籠シテ祈請シケレ共、示現モ不蒙。山王大師ヲモ奉リ恨ミ、離山シテ稻荷ニ詣テ祈玉ヒケルニ、幾程ナクシテ、千石ト云札ヲ額ニヲサセ玉ト夢ニミテ喜ヒ思ニ、又或夜ノ夢ニ稻荷仰ケルハ、「日吉ノ権現ノ御制止アレハ、先ノ札ヲハ召返ツ」ト有ケリ。夢ノ中ニ申ケルハ、「山王権現コソ御計無ラメ。ヨソノ御メクミヲ制止有ルコソ口惜ク侍レ」ト申レハ、御返事ニ、「我ハ小神ニテ思モハカス。山王ハ大神ニテ御座スカ、桓舜ハ今度生死ヲ決定可レ離ルモノ也。若今生ノ栄花有ラハ、生死ノ障ト成テ出離可レ難カルユヘニ、イカニ歎キ申サシカトモ聞モ入ヌニ、ナニシニタヒケルソ」ト制止有シカハ、取返ス也」トソ仰玉ヒケル。「去ハ深【21ウ】御慈悲ニコソ」ト夢ノ中ニモ忝ク覺テ、打驚キニケリ。纏テ帰山シテ、一筋ニ後世菩提ノ勤メノミヲコトラスシテ、速ニ開悟得脱シテ、然レハ神ニモ仏ニモ申スコトノ示現無ケレトモ、空シキハナシ。イカニモ御計アルニコソ。只信ヲ到シ劫ヲ入テ冥ノ益ヲ憑ムヘキ也。

宝地坊ノ証眞法印ノ夢ニ、西坂本ヨリ十禪師登セ玉ケルニ參リ合ヌ。手輿ニ召シテ御眷屬勢々トシテ御座ス。「何事ヲカ申入ヘシ」ト思テ、老母ノ貧ナルコトヲ思出テ、「老者養兼テ候。何かハ仕候ヘキ」ト申タリケレハ、御色サシ実ニ目出ク御心地ヨ

ケニ見サセ玉ケルカ、此事ヲ聞食シテ、シホくトヤセ衰ヘテ、  
モノ思質ニ成セ玉。「誠ヤ世事ヲ申ニ依テ御意ニカナハヌ  
ニコソ」ト心得テ、「イカ、ハ仕候ヘキ。後生御助け候ヘ」ト「22  
オ」被申タリシカハ、御気色本ノ如クナララセ玉テ、殊外  
ニ御心地ヨケニ打咲打ウナツカセ玉フトソ夢ニミ玉ケル。サテ  
コソ道心ノ色モ深ク、勤行ノ心モ増ヲモカリケル。惣シテ人ノ  
世事ノミニ心ニ纏テ神仏ニ祈申スハ返タモ愚カナリ。和光ノ本意  
ハ佛法ニ入レントノ御志シ、二モ無ク三モ無シ。此ノ意ヲ得テ  
修字シ、仏道ヲ祈請セヨトナリ。

○生類ヲ供スル神冥ニ不審事

安藝ノ嚴島ヘ、菩提心祈請ノ為ニ、人多ク參詣スル由申伝タ  
リ。其由緒ヲ或人申シハ、「昔弘法大師參詣シテ、密教甚深ノ法  
味ヲ備ヘ玉ケル時、示現ニ、何事ニテモ御所望ノコト承ハルヘ  
キ由被仰ケルニ、『吾身ニハ指タル所望候ハス。末代ニ菩提心祈  
請スル人出来候ハンニ、道念ヲ【22ウ】タヒ候ヘ』ト申サセ玉  
ケレハ、『承ハリヌ』ト仰玉ケル。是故ニ、今マテ道心者常ニ參  
詣スル」トソ語申ケル。或上人、道心ノ為ニ參籠ス。社頭ノ様  
ナント見ケレハ、海中ニ魚類イクラト云コトモナク祭ニ供シケ  
リ。和光ノ本地ハ仏菩提也。慈悲ヲ先トシ衆生ニモ殺レ生ヲ誠  
メ玉フヘキニ、此様大ニ不審ニ有ケレハ、取別テ此事ヲ先ツ祈  
請シキ。即示現蒙ケルハ、「誠ニ不審ナルヘシ。因果ヲモ不レ知  
浦人カ生類ヲ恣ニ億劫ニモ難レ浮罪人也。然トモ終ニ供セント  
思ヘル志計ヲ便トシテ、咎ノ我ニ譲リ、彼カ罪業ヲ濟フ。被殺  
生類ハ、又報命尽ハテ、ナント無ク徒ニ捨ヘキ命ヲ、我ニ供  
スル因縁ニヨリテ、仏道ニ入ル、方便ト成ス。仍我力ニテ、罪

深背ニ報命ツキタル鱗ヲカリ寄テ取【23オ】スル也」ト示シ玉  
ヒケレハ、不審ハレニケリ。信州ノ諏訪、下州ノ宇津ノ宮、狩  
獵リ宗トシテ鹿嶋ヲタムクルモ、此由ニコソ。大権ノ方便、垂  
迹ノ利益、凡夫争カ可レ測。真言調伏ノ法モ、行者慈悲利生ノ  
意業ニ任シテ、為レ世、為レ人、惡ト成テ暴惡ノ者ヲ調伏スレ  
ハ、彼レ必ス慈悲ヲ起、惡念ヲ止メ後生ヲ願ヒ、菩提ヲ語ルト  
云ヘリ。唯以惡敵ノ心ヲ偏ニ挾ニ邪見ノ思ヲ、ヒラニ行セハ、  
法ノ本ニモ背キ、定テ罪業ニモ成也。法モ成就スヘカラス。サ  
レハ神明ノ御方便モ此ノ趣キナルヘキヲヤ。凡殺生ヲセスシテ、  
佛法ノ道理ニ任テ戒善戒行ヲ守リ、顯垂迹業ノ法業ヲ捧ケンコ  
ソ、実ニハ、神冥神祇モ納受シ玉フヘキナレ。情謀ニ教法ノ源  
一漢土ニ儒道ニ教ヲ始メ弘メシ時ハ、【23ウ】以ニ牛羊等ヲ孝養  
ニハ祭キ。古徳ノ云ク「佛法ハ輒ク流布シ難シ。仍天竺ノ菩薩、  
先ツ漢土ニ生レリ。外典ヲ弘、父母ノ神識在ル事ヲ知シメ、孝  
養ノ志シヲ教ヘテ、佛法ノ方便トス」ト云リ。去レハ外典ノ教  
ヲハ外教ト云テ、正シキ仏教ニハ非ス。仏法流布シテ釈教ヲ  
行スル時ニハ、彼祭ニハ改メテ、以佛法ヲ孝養ノ儀ヲナス。以  
之思之、我國ノ始メ、佛法ノ名字モ未レ聞、因果ノ道理ヲモ未  
レ弁ヘ時ニ、仏ニ仕ヘ法ヲ行スヘキ方便ニ、祭ト云事ヲ教ヘテ、  
仏法ヲ信敬スヘキ便トシ玉ヘリ。仍今仏法ヒロマリナハ、昔ノ  
ワサラステ、法味ヲソナヘ、戒善ヲ行ハンコソ、真実ノ法業  
ニテ可レ有。人ノ心古クシナレヌルワサヲ捨テ難ク、昔モ思  
ヒソメル心ヲハワスレカタキマ、ニ、只情量ニ【24オ】任テ物  
ライミ、執心深シテ祭ヲ好モ、法味ヲ薄クシテ戒行ヲ背クハ、  
返タモ愚カニコソ。今様ハ和光ノ面テモ戒行ヲ好玉ヘルコソ。

熊野詣テ、吉野参リ、皆戒律ニタカハス。又諸社諸宮ニ中古ヨリ誦經ナント被行ハ、実ニ本地ノ意樂ヲ伺ヒ、垂迹ノ威光ニ副ヘ玉ヘハ、何計カハ目出ク思食覽。

△昔漢土ニ深山ノ麓ニ靈驗ナル社口有ケリ。世ノ人、是ヲ崇敬テ牛羊シ魚鳥ナントヲ祭ケリ。其ノ神ノ本地、只古釜也ケリ。或時、一人禪師来テ彼ノ釜ヲ叩テ、「神何所ヨリ来リ、靈何所ニカ有」ト云テ、悉ク打摧テケリ。爾時ニ、青衣着タル俗人独リ現シテ、冠ヲ傾ケ掌ヲ合セテ、「今禪師ノ無生ヲ説玉フニ依テ、忽ニ苦報ヲ離レテ、既ニ天上ニ生レヌ。誠ニ〔24ウ〕其恩難ト報云テ去ヌ。サレバ生類ヲ殺テ祭ルハ、神冥クルシミヲ受サセ玉ヒ、法味ヲ捧テ甚深ノ義理ヲ説クニハ、染ヲ受ク」ト云ヘリ。此意ヲ得テ罪無法物備ヘ、法淨ノ法味ヲ可レ奉者也。

和光方便ニテ妄念ヲ止タル事

上総国高瀧ト云所ノ地頭、熊野ヘ年詣シケリ。只一人モチタリケル娘ヲイツキカシツキテ、且ハ彼ノスヘノ世ノ為ト思ケレハ、相具シテソ詣ケル。此娘メ、ミメカタチナメノ人ニモコトニヨシ有ケルヲ、熊野ノ師ノ坊ニ、京ノ人ニテ若僧有ケリ。此娘ヲ見テ心ニ係テ、何ニ忍ヘトモツ、ムニタヘヌ習ナレハ、弥ヨ深ノミ思入レリ。「穴憂ノコトヤ。我古京ヲ離レ靈社ニ籠、淨行ヲ〔25オ〕企テ、仏法ヲ修スル物ニ、為後生菩薩也。然ルヲ、カ、ル悪縁ニ値ヒ、妄念ヲ起シテ生涯ヲ失ヒ、一期ヲハタサヌコトコソ口惜ケレ」ト思テ、本尊ニ祈リ権現ニ申セトモ、日ニ随ヒ時ヲオウテ、彼カ面影ノミ立添テ、遣方モ無キマ、ニ、笈打係テ、アツカレ出ツ、上総国ヘソ下リケル。サテ鎌倉スキテ、ムツラト云処ニテ、便船ヲ待テ、上総ヘ超ヘテ浜ニ打臥テ

休ミケル程ニ、歩ミツカレテ、チトマトロミタル夢ニミケルハ、便船ヲ得、上総ヘ渡ヌ。躑テ高瀧ヘ尋行タリケレハ、家主出合テ、「何ニシテコレマテ下リ玉ヘルソ」ト云フ。「鎌倉ノ方、アマリニユカシク侍テ、修行ニ罷出テ、候ツルカ、近程ト承テ、御宿所ヲモ見参セントテ参侍侍」ト云フ。サテ、サマノモテナシケリ。トクノ可登時ニ〔25ウ〕申ケレハ、「暫ク田舎ノ様ヲモミ玉ヘ」ト留メツ、トカク伺ヒヨリテ、忍々ニカヨイケリ。互ノ志シ不レ浅程ニ、男子一人イテキニケリ。父母聞レ之、大怒テ不孝シヌ。便ヲ求テ、娘ノユカリ有ル人ノモトニ忍テ隱居、年月ヲ経ル程ニ、「只一リ娘ナレハ、不レ及レ力」トテユルシケリ。此僧モミメ形ナヒラカニ尋常ナル若者也ケル上ヘ、サカノシク、手跡モヨク書ケレハ、「今ハ子ニコソシ奉ラメ」トテ、鎌倉ノ代官ニ登セツ、物沙汰ナント云付ルニ、サカノシクシケリ。孫モカタチ誠二人々數ク見ヘケレバ、貴モテナシケリ。早ヤノ子共両三人イテキヌ。嫡子十三ト云ケル春ル、為ニ元服、鎌倉ヘツカハス。サマノ雜事引出物トモ用意シテ、船トモアマタシタテ、海ヲワタル程ニ、風〔26オ〕ハケシク浪アラカリキ。此子フナハタニ立望テ、謬ニ海ヘ落入ヌ。「アレノ」ト云トモ、ソコニシツミテミヘス。胸ヒシケ心マトイテアハテサワキヌト思テ夢サメヌ。十三年カ間ノコトヲ明カニ夢ミルニ、サムレハ只片時ノウタ、ネノ程ナリケリ。我今暫ハ夢ミル。謂ニ多<sup>テ</sup>年<sup>ト</sup>。覚ハ乃チ須叟ノ間也。是レハ時ニ雖ニ無量<sup>ナリト</sup>撰ニ在<sup>ス</sup>一刹<sup>ニ</sup>。此事ヲツクノト案ツ、クルニ、設ヒ本意ヲ遂テ樂ミ榮ヘ有ト云トモ、只暫ク悦ヒ、幻ノ悦樂ナルヘシ。又会者定離ハ娑婆ノ定レル習也。設ヒ始メ悦

ヒナリトモ、終ハ悲ミ有ヘキニコソ。無由思切テ、コレヨリ鱧  
テ熊野ヘ登テ行ヒスマシテケリ。偏ニ直事ニアラシ。権現御方  
便ノメクミニ社ソ有ケメ。

○昔莊周カ【26ウ】片時ノ眠ノ中ニ、胡蝶ト成テ、百年カ間花  
園ニ遊テ、夢ミテ覺メテ思ヘハ、暫ノウタ、ネナリ。莊子云、莊  
周カ夢ニ胡蝶ト成トヤセン、胡蝶カ夢ニ莊周ト成ルトヤセン」  
ト云ヘリ。誠ニサムルウツ、モ夢ナリ。共ニ夢ナレハ、ワキカ  
タキ由ヲ云ルニコソ。凡三界ノ輪廻、四生転変、皆是無明ノ夢  
ノ中ノ妄想ノ夢ナリ。サレハ円覺經ニハ、「始知衆生、本来成仏、  
生死涅槃、猶如昨夢」説テ、実ノ悟ヲ開テ見レハ、無始ノ生死、  
始覺ノ涅槃、只一念ノ眠也。本覺不生ノ心地ノミコソ、眠モ無  
ク夢モ無キ、実心ナレ。或古人云「昨日ノウツ、ハ今日夢、コ  
トナルコトナシ。ウツ、ノ境モ、事スクレハ夢ノ如シ。時当テ  
ハウツ、ニ似。誰ノ智有ラン人カ、夢ト【27オ】覺トコトナリ  
ト思ハン」ト云ヘリ。深キ理ニコソ、難悟侍レ。夢幻ノ世上ノ  
コト、心アラン人不可疑。樂天云「榮枯事過ヌレハ、都テ夢ト  
成ル。憂喜心ニ忘ヌレハ、便チ是禪トス。」誠事過キ空ノミニ非  
ニ、時ニアタテハ、無ニ自性故ニ空也。然間生ニ当リテ不生ナリ。  
諸法ヲ実ニ夢ト知テ、喜モ無ク、憂モ無ク、心地寂靜ナラハ、  
自然ニ禪門ニ相応スヘキヤ。又云「禪ノ功ハ自ら見ル。無人  
覺ル事。合ニ是愁ニ時亦不愁。」文ノ意ニ云「夢ノ中ノ事ハ喜モ  
憂モ心ヲ留ムヘキ事無。我等カウツ、ト思付タル事、皆是夢也。  
生ヲ悦ヒ死ヲ憂ヘ、合ヲ樂ミ離ヲ悲ム事、是ヲ夢ト不レ知心也。  
此等ノ事ニ都テ心不動ハ、即空門ニ入レル人ナリ。口ニ禪トセ  
ス、心ニ諸念ヲ忘レテ、寂靜【27ウ】ナルヲ禪トハ云ヘキ也。」

莊子ニ云ハ、「狗ハ不似善吠ヲ為良、人ハ不似善言為賢ニ云云。」  
サレハ法門ヲ口ニ善ク云フ人モ、心モ名利五欲ノ思ヒ深ハ、禪門  
ニ遠シ。梵網經ニ云「口便說空、行在有ノ中。」未代ハ真実ノ智  
恵モ道心モ有ル人ハ希也。口ニハ法ヲ説トモ、心ニハ道ヲ行ス  
ルコト無シ。口夢ノ事、誠ノミ思テ、執心深、愛着厚シ。唯識  
論云「未得真覺、恒処夢中ニ。故仏説為生死長夜ヲ。」慈恩大師  
云「有心外法輪廻生死、覺知一心生死永棄」ト云。「生死ノ長夜  
ノ不曉事、心外ニ法ヲ見テ、為ニ妄境被転故也。心外ニ法ヲ不  
レ見、法即心、々即法ニシテ生死可出」云ヘリ。心有ラン人、  
一心ノ源ヲサトリ、三有ノ眠ヲサマスヘシ。【28オ】

浄土宗ノ人不可輕神冥事

鎮西ニ浄土宗ノ学匠俗アリケリ。所領内新白山宮ノ神田ヲ檢  
注シテ、余田ヲオコシ取ル。社僧神官憤申テ、於ニ関東及上裁  
ニ難爾。「本田ノ外ノ余田ヲ起ヌニ依テ、地頭ノ所申道理ニヤ」  
トテ、無沙汰ナリケル程ニ、又地頭ニタリカシ敷申トモ、太方  
ユルサス。サテ、「奉ニ呪詛」ト云ケレトモ、聊モ恐ル、コトモ  
無ク、弥ヨ張行シテ、「イカニモ呪詛セヨ。我浄土門ノ行人ナリ。  
万行念仏ニカタスト云ヘリ。神冥ナントナニトカ奉ヘキ思。接  
取ノ光明トコシナヘニ蒙ラン行人ヲハ、神冥モ争カ罰シ玉フヘ  
キ」トテ、嗚呼ツキアサフキケリ。去ハトテ社僧神人トモ憤深  
クシテ呪詛シケルニ、【28ウ】何程無クシテ、ワルキ病付テ物狂  
シク成ケレハ、母儀ノ尼公、大驚キ恐レテ、「尼カ孝養トモ思  
テ、此ノ神田ヲ返シ參テ、ヲコツリ申玉ヘヨ」ト泣タイサメ申  
ケレトモ、不用。去程ニ、病患日々ニヲモリテ、タノミナク見  
ヘケレハ、母思ヒカネテ、様々ノ幣帛ヲ捧テ、神冥ヲヲロシ奉

テ、病者ノモトへ使ヲ遣テ申ケルハ、「御崇リナノメナラズ。御  
神田返シ參セヨ。ナホモ神田ヲ副テヲコツリ玉へ」ト云ニ、病  
者物狂シキ気色ニテ、頸ヲネチテ、「何条神」ト云テ少モユルカ  
サツ。使ヒ、ヒソカニ「シカく」ト申ケレハ、母ノ尼、余リ  
ノ心憂ニヤハラケテ、巫女ニ向ヒ、「病人ハ神田ヲハ返參ラセン  
ト申候也。今度ノ命計リハ助サセ玉へ」ト申セハ、巫女恐レル  
体ニテ、「アノ頸ヲネチテ『何条』【29オ】神」ト云モノヲ。アラ  
キタナノ心ヤ。我権現ハ本地十一面ノ化身ナリ。本師弥勒ノ誓  
願ヲタノミ、「真実ノ心有テ、念仏唱へハ、イカニ糸借モ覚、貴  
モ待ナン。己程ニキタナク濁リマサナキ心ニテハ、争カ本願ニ  
相応スヘキ」トテ、ハタ／＼トツマハシキシテ、サメ／＼トナ  
キ玉ヘリ。是ヲ見聞ク人、皆涙ヲ流シ、悉ク身ヲヒヤシケリ。  
サテネチタル頸ヒ、ツキニナホラスシテ、曲ナカラ氣絶ニケリ。  
最後ノ時ニ臨メハ、年来ノ善知識ノ僧來テ、念仏ス、メケレハ、  
「ナマコサカシ」トテ枕ヲモテ打ケルニ、打ハツシテ稀有ノ命  
トソ見ヘケル。其後ホトナク母ノ尼公、又煩ケリ。即白山権現ヲ  
下シ參セテ、ヲコツリ申ス。「我ハ制止申セシカハ、御トカメ有  
ヘシトモ不レ覺」ト泣々【29ウ】申ケレハ、「誠ニ制止セシ事ハ  
サルコトナレトモ、子ヲ思フ心切ニシテ、心中ニ我ヲウラミ思  
シコトヤスカラス」トテ、終ニ械ナクシテ死ニケリ。彼ノ所領  
子息繼テ有ケレトモ、不レ久シテ、家ノ棟ニ鷲ノ居ケルヲトリ  
ケレハ、「権現ノ御トカメ」ト云ヘリ。其領内ニ陰陽師アリ。「神  
ノ御崇ナラハ封セシニ、何ノ罰候ヘキ」トテ、与度ナントシケ  
ルカ、盃持ナカラ、人ノシハルカ如クシテ、手ヲウシロヘマハ  
シテスクミ死ニシニケリ。其陰陽師ノ子今ニ有テ親ク人ニ語

付ク。当世ノ事ナレハ、見及聞及人多シ。彼ノ子孫親類有コ  
トニテ、其憚不レ少侍ヘレトモ、人ノ上ヲ云ニハ非ス。只神  
威ノ目出コトヲ世ニ知センカ為メ也。凡念仏宗トハ、濁世相應  
ノ要門、凡夫出離ノ直路ナリ。決定往生【30オ】無疑故、余行  
余ノ善ヲ撰ヒ、專念專修ヲ立スカヒハ、本願ノミニホコリテ余  
ノ仏菩薩明王天等神冥マテモ輕ク思ヒ、諸ノ大乘ノ法門聖教、  
甚深妙典ヲモ誹謗ス。コトニ諸行往生ユルサヌ流祖、此ノ謬リ  
多シ。太方經ノ文モ釈ノ中ニモ、余行往生少モアラソヒナシ。  
觀經ニハ、「誦誦大乘、解第一義、孝養父母、奉仕師長、具諸戒  
行トテ世間五常善マテモ不漏廻向シテ、可ニ往生ス」見ヘタリ。  
双管經ノ四十八願ノ中ニモ、「第十八ノ願コソ、取別キ念仏ニテ  
侍レ。第十九ハ修ニ諸ノ功德ヲ廻向セハ、來迎スヘシト誓ヒ、  
第二十八殖ニ諸ノ徳本ヲ、係念シテ定生スヘシ」ト云ヘリ。サ  
レハ念仏ハ取分諸行ノ中、撰ヒ勝キ。一願ニ【30ウ】立テ、正  
ナリ。本ヨリ余行ハ惣シテ生因ノ願ニ立テ、傍也、末也。然レ  
ハ往生セストハ何申サン。善導ノ釈ニモ、「万行俱廻皆得往生  
ス」ト釈シテ、万行万善イツレモ廻向セハ可往生ス見タリ。雜  
行ノ下ノ釈ニハ「雖可廻向シテ得生、衆名疎雜之行」釈シ玉ヘ  
リ。疎ト親ト傍ト正トハ有レトモ、往生セストハ不見。矧ヤ法  
花ヲ誦シ、真言ヲ唱ヘテ往生ノ素懷ヲ遂クルコト、經論ト云也、  
伝記ト云、三國ノ先蹤惟多シ。一願ノ風儀、非一一。押テ大乘  
ノ功能ヲ失ヒ、誹ニ余教ノ利益、ナイカシロニス。甚  
大得心カタシ。仰テ本願ヲ深ク信シ、懇ニ念仏ノ功ヲ積ミ、余  
行余宗ヲソシリ、念仏菩提神冥神祇ヲ食レ輕不レ可有。此人  
ノ臨終ニ【31オ】其咎見ヘタリ。前車ノクツカヘルハ、後車ノ

誠ナルヲヤ。真実ニ往生ノ望ミ有ン人、此事ヲ可弁也。諸  
行往生ユルサヌ流ハ、弥陀讃ムルニ似タリ。還テ謗ルニ成ルヲ  
ヤ。其故ハ、弥陀ハ慈悲廣大ニシテ、万行万善ヲ修スル人ヲ不  
漏來迎シ、極楽境界無辺ニシテ、余教余宗ヲ習ヘル輩ヲ不捨撰  
取シ玉ハンコソ、余仏ノ本願ニモ勝レ、十方ノ淨土ニモコエテ、  
我建超世願ノ誓モタノモシク、廣大無辺際ノ國モメテタカルヘ  
キニ、余行余教ハ被テ撰捨一往生セヌコトナラハ、仏ノ慈スク  
ナク、國ハ分限セハクコソ覺ユレ。

○或乳母ノ姫君ヲ養ヒテ、余ニ讚メントテ、「ワラハカ養ヒ姫君  
ハ、ミメノイツクシクテ、【31ウ】御マナコハホソく、トシテ、  
アイラシクヲワスルヤ」トホムルヲ、ヒトノ「目ノホソキハワ  
ロキ物ヲ」ト云ヘハ、「ヤラ、片方ノ御目ハヨニフトクヲワスル  
ソ」ト云ケルコソ、思合セ侍レ。弥陀ヲモホメソコナヒテ侍ル  
ニヤ。又余行往生ユルサヌ流ノ中ニモ、義門マツカ区ナリ。或人師ノ  
義ニハ、「余行ノ不往生ト云ハ、三心ヲ不具時ノ事也。三心具シ  
ヌレハ、余行モ皆念仏ト成テ、往生スヘシ。設ヒ唱名号トモ、  
三心無クハ不可ニ往生」ト云ヘリ。若此義ナラハ、余行ト念  
仏ト全ク替ルコトナシ。先達ハ加様ニナク隔テ申テ、機ヲス、  
メ、宗ヲ弘ム。ソノ談トカナシ。愚ナル末学在家人ナント、只  
詞計ヲ聞テ余行ヲソシルナルヘシ。中比念仏門弘通サカリナリ  
ケル【32オ】時、余行余教ミナイタツラ物ナリトテ、法華經ヲ  
モ河ニ流シ、地藏ノ頭ニテ蓼ヲスリナントシケリ。或里ニ隣ノ  
家ノ事ヲ下女ノ中ニ語テ、「隣ノ家ノ地藏ハ目トマテスリツツ  
シタルヤ」ト云ケリ。アサマシキシハサニコソ。或淨土宗ノ  
僧、説法シケル時キ、弥陀ノソハニ地藏菩提ノ立玉ヘルヲ、「便

ナシ」トテトリヲロシテ、散々ニソシリケリ。或人云ケルハ、  
「地藏ヲ信センモノハ地藏隨ヘシ。地藏ハ地獄ニヲワスル故  
ニ」ト云ヘリ。サラハ弥陀觀音モ利益ニハ遊戲シテ地獄ニコ  
ソ御座セ。アナカチニ地藏ニ限ルヘカラス。是皆仏体ノ源ヲ不  
知シテ、差別ノ執瞋深キ故ナリ。

○又北國二千部ノ經説タル持經者アリケリ。或ル念仏者、勸テ  
【32ウ】念仏門ニ入テ、「法花經ヲ讀ム物ハ必ス地獄ニ墮ルナリ。  
アサマシキ罪業ナリ。雜行ノ者トテ拙コトソ」ト云ケルヲ信シ  
テ、「一向ニ無余念念仏不レ申シテ、年來經ヲヨミケンコトノク  
ヤシキク口惜サ」トノミ立居ニ云程ニ、口ノイトマモ無ク、カ、  
ル邪見罪業ニヤ、ワロキ病付テ物狂數クシテ、「經説ケル、クヤ  
シキく」トノミ口チスサミテハ、ヲノレカ舌モ唇モミナクイ  
切テ、血ミトロニ成テ、クルヒ死ニ死ニケリ。勸タル僧ノ云ケ  
ルハ、「此人ハ、法花經説タル罪ハ懺悔シテ、其ムクヒニ舌モ唇モ  
クイキリ失ヌ。今ハ罪モ消テ決定往生シサフラヒナン」ト云ヘ  
リ。

○又中比念仏門流布シテ、惡人ノ可往生之由ヲ立テ、戒ヲモ【33  
オ】持テ經ヲモ讀ム人、往生スマシキ様ヲ曼荼羅ニ図シテ、貴  
ケナル僧ノ經説テ居ニハ光明サ、スシテ、殺生スル者ニ接取ノ  
光明サシ玉ヘル様ヲ書テ、世間斷ケル此、南都ヨリ公家へ奉奏  
狀ヲ事アリケリ。其狀ニ云ク、「彼ノ地獄ノ絵ヲ見ル者ハ、惡ヲ  
ツクリシヲ悔イ、コノ曼荼羅ヲ拜スル輩ハ、善ハ修センコトヲ  
悲」ト書ナリ。凡以ニ四句ヲ判スル時、善人惡性ナルモ  
アリ。上ハ善人ニシテ、ソコハ名利ノ心フカクテマコトナキモ  
ノモアリ。惡人ノ宿善アリキ。上ハ惡人ナレトモ、ソコハ善心



フカキモアリ、道念モアラハ、カ、ルヘキコトニテ待ルヲ、愚痴ノ道俗ハ偏執我慢ノ心ヲサシハサミテ、持【33ウ】戒修善ノ人ヲハ、「悪人ナリ、雜行ナリ、往生スマシキモノ」トソシリカロシメ、造悪不善ノ者ヲハ、「善人ナリ、正行ナリ。接取ノ光明ニ可照、往生決定」トウチカタムル邪見、ヲ、キナル過カナルヘシ。聖教ヲモ学ヒ、先達ニモ近付タル人ノ中ニハ希ナリ。辺地ノ在俗ノ中ニ、カ、ル風情、多聞ヘ侍リ。念仏門ノミナラス、天台・真言・禪門ナントモ、辺国ノ末流ニハ多ク邪見ノ義門侍ルニヤ。サレハ、イカニモシテ智者ニ親近シ、聖教ヲ知識トシテ、僻見ノ家ヲ出テ、邪執ノ林ニイラサレ。是ヲ以テ經ニハ、「菩提ノ妙果非<sub>レ</sub>ズ難<sub>レ</sub>ハ成。真ノ善知識ニ値コト難ナリ」ト説キ、古徳ハ「出世ノ不<sub>レ</sub>逢ニ明師<sub>ニ</sub>、狂テ大乘ノ法樂ヲ服ス」トイヘリ。【34オ】天台ノ祖師モ、「利根ノ外道ハ、邪相ヲ正相ニ入レ、以<sub>ニ</sub>邪法<sub>一</sub>為<sub>ニ</sub>正法<sub>一</sub>、鈍根ノ内道ハ、正相ヲ邪相ニ入レ、以<sub>ニ</sub>正法<sub>一</sub>為<sub>ニ</sub>邪法<sub>一</sub>」釈シ玉ヘリ。六祖ノ所判ニハ、「邪人正法ヲ説ケハ、正法邪法トナル」釈シ玉ヘリ。近代ハ正見希ニシテ、如来ノ正法ヲ邪見ノ情ニマケテ、自他トモニ邪道ニ入ルヘキラヤ。牛ハ水ヲ飲テ乳トシ、蛇ハ水ヲ飲テ毒ス。法ハ一味ナレトモ、邪正ハ人ニ依ル。能々此義ヲ知テ、邪見ノ過ヲ遁レテ正真之道ニ入ルヘシ。

(一行アキ)

沙石集卷第一 畢

(うえの ようこ・慶應義塾高等学校非常勤講師)